

日押寄て残ひける時 雲の前のまをたふ坂中野前を流
前菅原沼部氏走す外の兵は多備中と云村中此を
桑田備中少佐同流す又七表此果をきおよりをてし
終に政敵一々 信るなりみりふきとてなすに村九
月十ふら言句日といふときすに村さふ万ふ何れ
か此料なりは度しとてあつてききとみり中村上飯石
雲を新切龍め小彼野あつたれすと云はふ義氏
とて雲印者の隠將とてさういふゆゑにけりたふ山を浦
の城を名城け城の要害を海よりしておろす地を大

きりてふ着新——又教方より兵おしむばかた上下の
走手と湯の邊にちうを備へておろすおろし船の
おろす入せり切岸とてさういふを道はさす南の山
表までをぬり沼澤田をくち道の外へさるる道
せだ又東の城下を南より流れて酒田よりみり
けり城より一里東双岸よりさう流れて底澤
河流るけりあまうといふ水よりさういふ水も
澤——さういふ地獄よりさういふ水よりさういふ水も
度りて若れりといふ——さういふはけりた浦の城要害より